

## 会員の広場



『2024年(令和6年)辰年について』

田川 修司(東京)

2024年(令和6年)は新年早々、能登半島地震に航空機事故と大変な年明けになりました。世界では戦争や感染症などグローバルな規模で影響を及ぼす事柄が多発している時代になって来ています。今年は辰年です。辰年の相場の格言は「辰巳天井」と高値を付けるという格言があります。景気が上向いたり、回復すると言われています。今年の経済活動は期待できそうですね。

辰は、十二支のなかでは5番目に数えられ、時刻で

竜は古代中国の神話では神獣とされているので、中国では皇帝のシンボルとなっています。

そのため、竜頭⇨帝王の顔、竜衣⇨帝王の衣服、竜影⇨帝王の姿など帝王にまつわるものには竜がつくことが多く、最上級の意で竜を用いることもあります。

中国の龍は「権力の象徴」爪の数で位が決まっています。最も多い5本爪の龍は皇帝の象徴で、その図柄も皇帝のみ使用することができ、それを犯したものは死罪となるほど厳しいものでした。爪の数が4本は貴族などの位が高い者が使用でき、爪の数が3本龍のみが民衆が使うのを許されました。

また、竜は四神(青竜、朱雀、白虎、玄武)のひとつです。竜には人間の力の及ばない自然現象への恐怖と畏敬が仮託されています。うまく統御出来れば豊かな実りをもたらします。一方ひとたび人間が約束を破れば途方もない災害が襲ってきます。

竜の諺では、「竜天に登る」竜はふだん水の中に棲み、空に昇ると風雲を起す。聖人が天子の位につくことや英雄が機を得て活躍することのたとえ。「飛竜雲に乗る」英雄や賢者が時期を得てその才能や実力を

いけば午前7時から9時までの2時間、方角でいえば東南東にあたります。干支は「甲辰(きのえ・たつ)」と新たな挑戦が吉の年に当たります。「はじまりの年であり、芽吹き年の活気にあふれ、力がみなぎる年」といった縁起が良いと思われれます。

「辰」は十二支の中では唯一の架空の生き物、龍(竜)を意味します。「竜」は常用漢字で、「龍」は旧字体。「竜」は「龍」の略字ですが、古字でもあります。竜は水をつかさどる神です。このため竜の伝説は湖や池にまつわるものが多いです。龍・竜は、竜巻や雷などの自然現象を起す大自然の躍動を象徴するものであり、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきました。

水中に棲むとされ、なき声で嵐や雷雲を呼び、竜巻となつて昇天し、飛翔します。竜の姿は「竜に九似あり」といわれるように、角は鹿、頭は駱駝、目は鬼、身体は蛇、腹は蜃(想像上の動物)、鱗は鱈、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似ており、長い髭をたくわえ、あごの下に1枚だけ逆さに生えた逆鱗があります。竜はこの逆鱗に触れられるのが大嫌いで、触れられると激高し、触れたものを即座に殺すとされています。

十二分に発揮すること。「竜の雲を得たるが如し」発揮することや得意の境地にあること。勢いに乗ること。「竜興りて雲を致す」竜が雨雲を招き寄せる。「竜吟すれば雲起る」竜が鳴けば雨雲が湧き起る。英雄の決起に多くの同士がこれに従う。「雲蒸竜変」英雄、豪傑が時に遭い期をとらえて大いに活躍することのたとえ。「飛竜天に有り」「竜の気概」「竜虎の争い」「画竜点睛」「竜飛鳳舞」「吉辰良日」等々。諺には、鋭い風刺や教訓・知識などが沢山含んでいて不思議に人を引き付ける力があります。

干支についてのことわざとか格言とかお話をまよめる事を行ってみました。長く語り継がれてきた歴史や教訓など色々な事柄が沢山ありました。最近の地震や集中豪雨被害など人間のおこりが竜の怒りを呼んでいるのでしょうか。

先の見通しの付きにくい大変な状況ですがこれらの事が早く収束に向かい安心・安全な生活が来る日々を願っています。人間と自然の調和を取り戻し竜を鎮めることができるかどうか今後の課題でしょうかね。「辰・竜・龍のことわざなどのお話に興味のある方は、事務局に連絡をくださいれば資料を提供します。」